

## 国内の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 8年2月の牛肉生産量、前年同月比1.5%減

#### 生産量

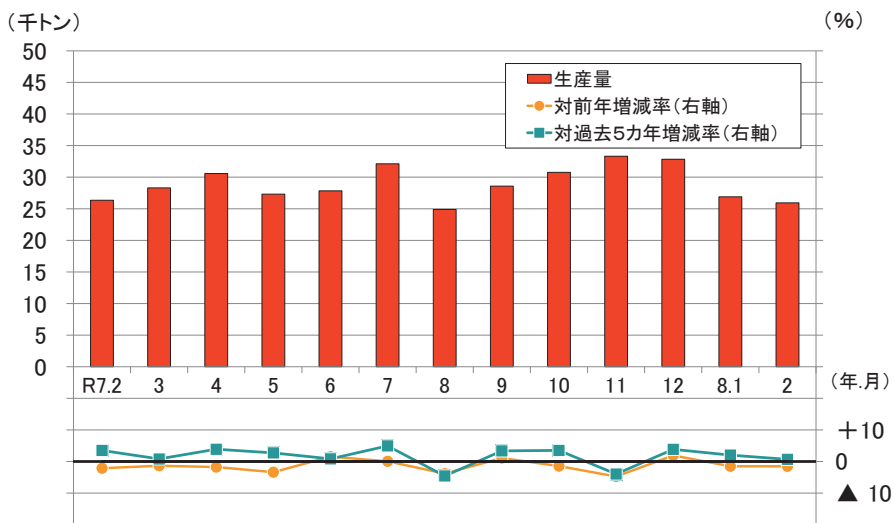
令和8年2月の牛肉生産量<sup>(注1)</sup>は、2万5949トン（前年同月比1.5%減）と前年同月をわずかに下回った（図1）。品種別では、和牛は1万3227トン（同0.0%増）、交雑種は7265トン（同0.0%減）と、ともに前年

同月並み、乳用種は5423トン（同6.8%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去5カ年の2月の平均生産量との比較では、0.7%増とわずかに上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

#### 輸入量

2月の輸入量について、冷蔵品では、現地価格の高止まりなどにより主要輸入先である米国産と豪州産の輸入量が減少したことなどから、9872トン（前年同月比10.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。

冷凍品では、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が減少した一方、米国産ショートプレート（バラ）の輸入量が増加したことなどから、2万821トン（同13.8%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図3）。この結果、輸入量の合計<sup>(注2)</sup>でも、3万715トン（同4.6%増）

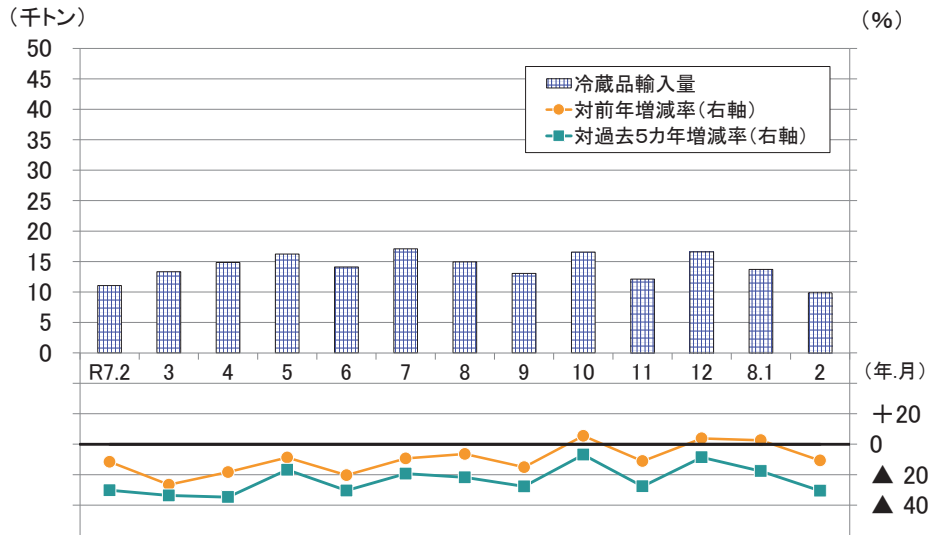
と前年同月をやや上回った。

結果となった。

なお、過去5カ年の2月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は30.6%減と大幅に下回った一方、冷凍品は1.9%増とわずかに上回る

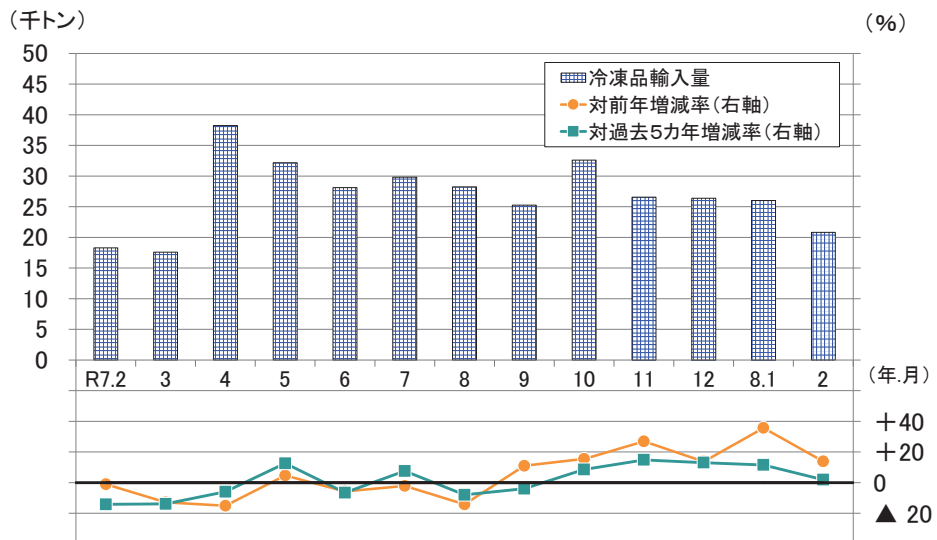
(注2) 輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量等

2月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）<sup>(注3)</sup>は140グラム（前年同月比4.0%増）と前年同月をやや上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の2月の平均消費量との比較では、8.7%減とかなりの程度下回る結果となった。

2月の外食産業全体の売上高は、年始需要が一巡したことで、月前半を中心に客足が落ち着き始めたが、月後半には客足が戻ったことで、前年同月比6.6%増と前年同月をかなりの程度上回った。足元の外食需要は堅調を維持しているが、各社とも「値上げ」と「お得なキャンペーン」の併存を続けながら客数を維持している（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、日替わりのお得商品キャンペーンや期間限定商品が好調であることなどから、同7.0%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフード

の和風は、新商品が好調であることや各社の値引きキャンペーンが奏功したことから、同11.1%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、前月に続き「ニクの日（2月9日）」キャンペーンや主力商品のメニュー改定などが奏功したことで、同4.7%増と前年同月をやや上回った。

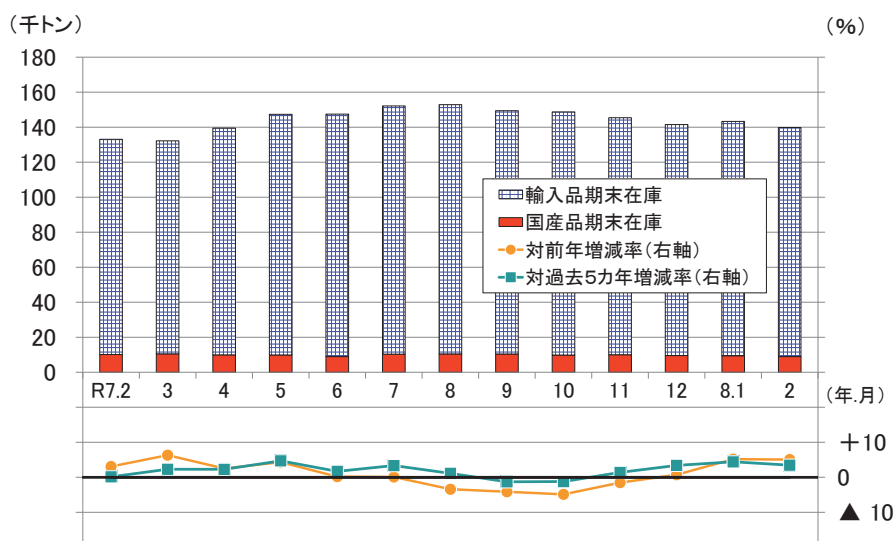
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

## 推定期末在庫・推定出回り量

2月の推定期末在庫は、13万9830トン（前年同月比5.1%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は8980トン（同11.3%減）と前年同月をかなり大きく下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は13万850トン（同6.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

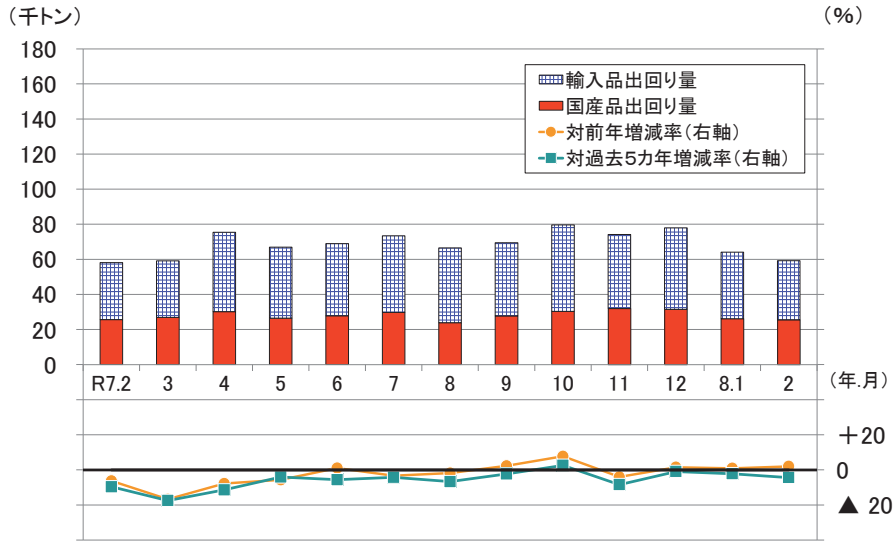
推定出回り量は、5万9237トン（同2.0%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は2万5520トン（同0.3%減）と前年同月並み、輸入品は3万3717トン（同3.8%増）と前年同月をやや上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

## 豚 肉

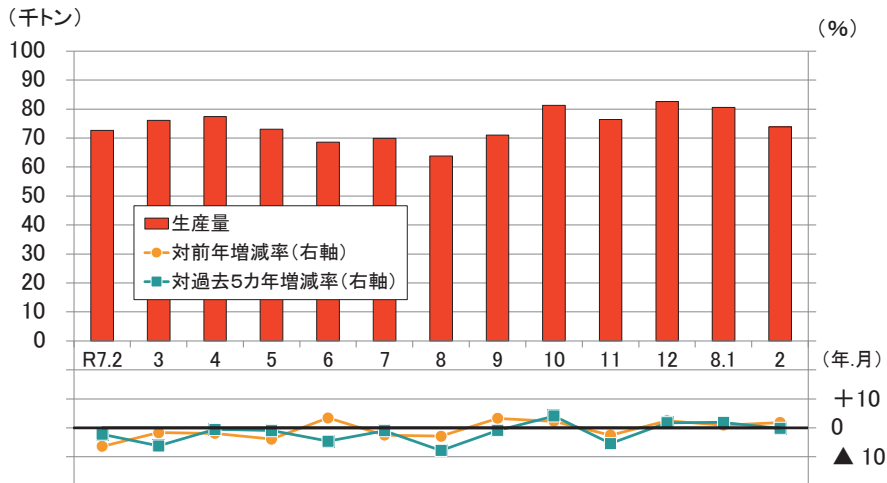
### 8年2月の豚肉生産量、前年同月比1.9%増

#### 生産量

令和8年2月の豚肉生産量は、7万3952トン（前年同月比1.9%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。なお、過去5カ年の2月の平均生産量との比較では、0.2%減と同水準という結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

## 輸入量

2月の輸入量について、冷蔵品は、前年の輸入量が通関のずれ込みなどを受けて低水準となった中、輸入量のほとんどを占める米国産、カナダ産およびメキシコ産のいずれにおいても増加したことなどから、3万3123トン（前年同月比20.0%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。冷凍品は、現地相場高や為替相場の影響、国内の輸入品在庫が高水準にあることにより前年同月比で減少して推移してきた中、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置<sup>(注1)</sup>の影響も加わった

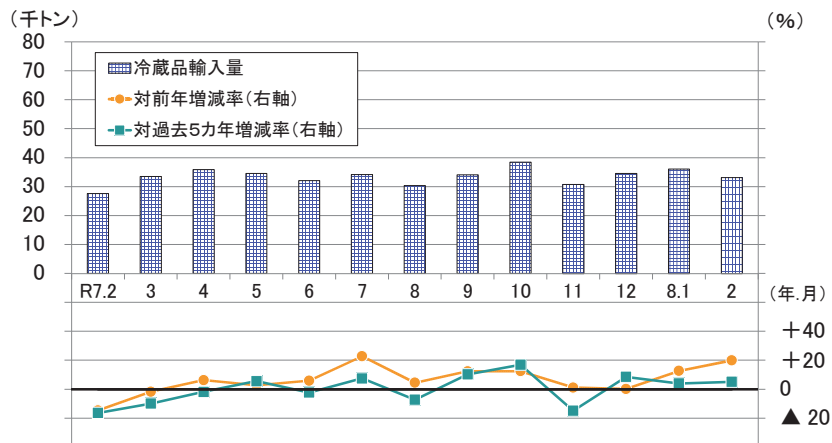
ことなどから、3万2313トン（同27.0%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。この結果、輸入量の合計<sup>(注2)</sup>では、6万5442トン（同9.0%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去5カ年の2月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は5.1%増とやや上回った一方、冷凍品は13.2%減とかなり大きく下回る結果となった。

（注1）農林水産省は令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管及び輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

（注2）輸入量の合計は、くず肉を含む。

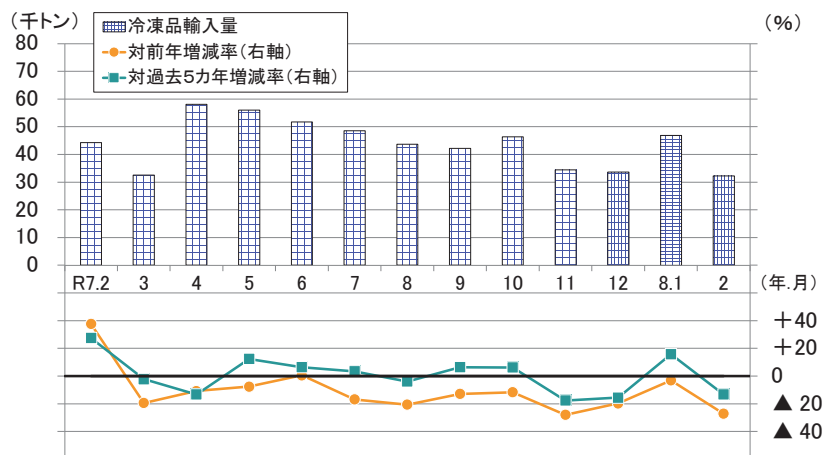
図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース。

## 家計消費量

2月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）<sup>（注3）</sup>は、634グラム（前年同月比6.1%増）と前年同月をかなりの程度上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の2月の平均消費量との比較でも、1.9%増とわずかに上回る結果となった。

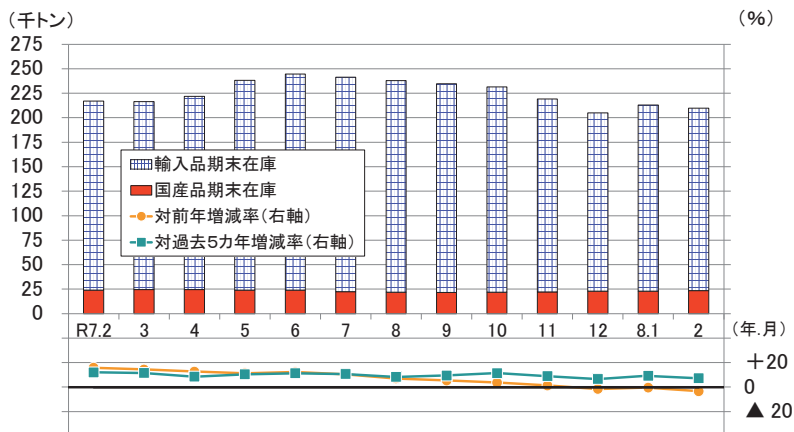
（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

## 推定期末在庫・推定出回り量

2月の推定期末在庫は、20万9659トン（前年同月比3.4%減）と前年同月をやや下回った（図4）。このうち、国産品は2万3465トン（同2.7%減）とわずかに、在庫の大半を占める輸入品は18万6194トン（同3.4%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

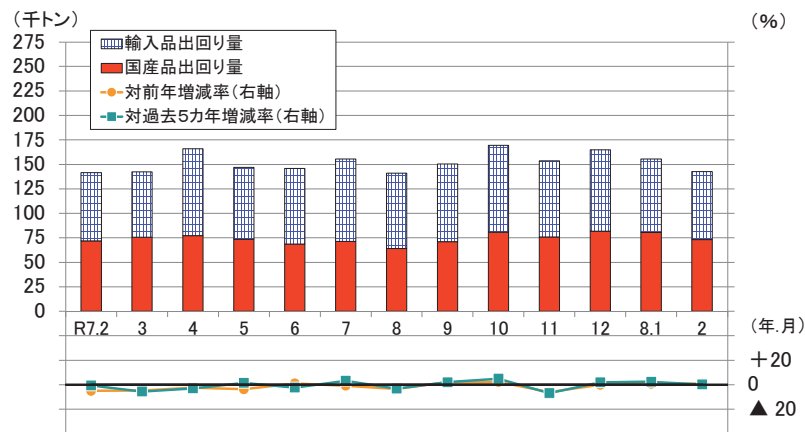
推定出回り量は、14万2735トン（同0.9%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は7万3310トン（同2.0%増）と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は6万9425トン（同0.3%減）と前年同月並みとなった。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

# 鶏肉

## 8年2月の鶏肉生産量、前年同月比2.4%増

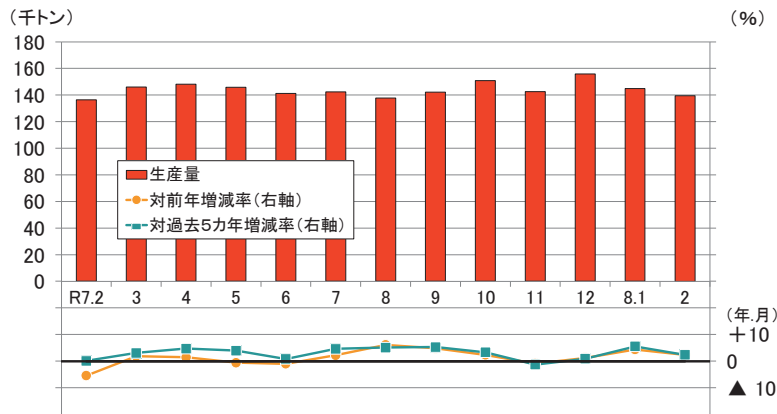
### 生産量

令和8年2月の鶏肉生産量は、13万9477トン（前年同月比2.4%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の2月の平均生産量との比較でも、2.4%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：骨付き肉ベース。  
注2：成鶏肉を含む。

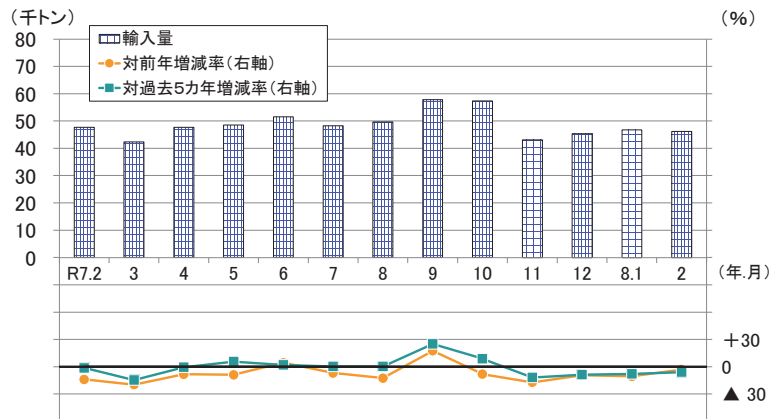
### 輸入量

2月の輸入量は、主要輸入先における労働者不足による生産量の減少が継続している

影響などを受けて、4万6231トン（前年同月比3.1%減）と前年同月をやや下回った（図2）。

なお、過去5カ年の2月の平均輸入量との比較でも、5.8%減とやや下回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

## 家計消費量

2月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)<sup>(注)</sup>は、517グラム(前年同月比0.7%減)と前年同月をわずかに下回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の2月の平均消費量との比較では、1.6%増とわずかに上回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

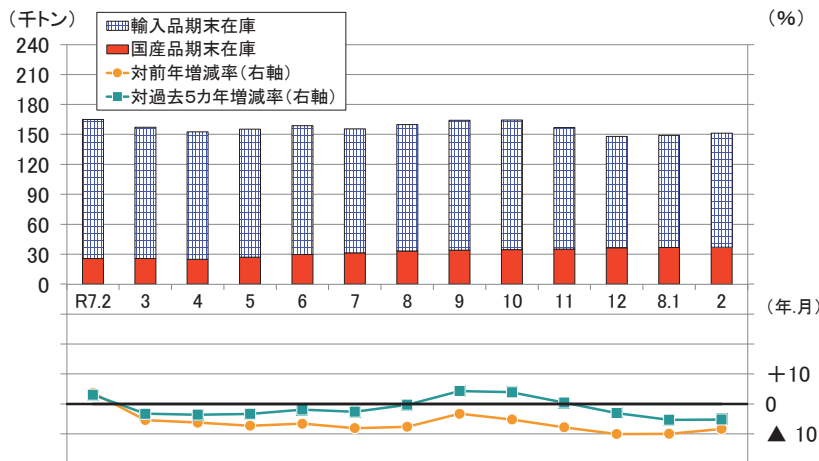
(前年同月比8.3%減)と前年同月をかなりの程度下回った(図3)。このうち、輸入品は11万4113トン(同18.0%減)と前年同月を大幅に下回った。

推定出回り量は、18万3565トン(同0.5%減)と前年同月をわずかに下回った(図4)。このうち、国産品は13万9238トン(同1.8%増)と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は4万4327トン(同6.9%減)と前年同月をかなりの程度下回った。

## 推定期末在庫・推定出回り量

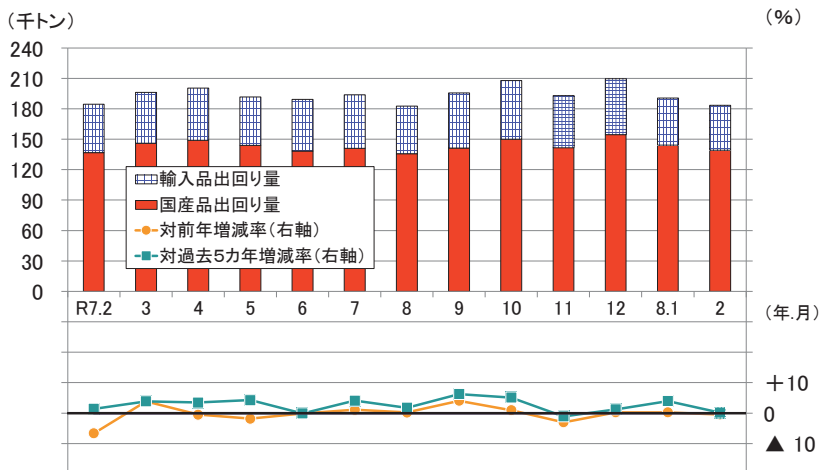
2月の推定期末在庫は、15万1172トン

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

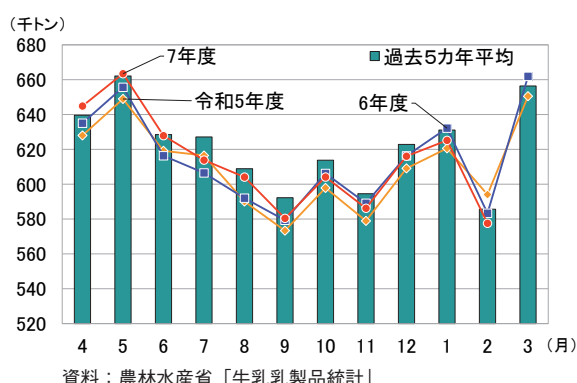
# 牛乳・乳製品

## 8年2月の飲用牛乳等の需要は依然として低調に推移

### 全国の2月の生乳生産量、前年同月を5カ月連続で下回る

令和8年2月の生乳生産量は、57万7582トン（前年同月比1.0%減）と、5カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別では、北海道が33万3878トン（同0.8%減）と、2カ月連続で前年同月を下回った。また、都府県でも24万3704トン（同1.3%減）と、6カ月連続で下回った。

図1 生乳生産量の推移



2月の生乳処理量を見ても、牛乳等向けは28万6768トン（同2.1%減）と、7カ月連続で前年同月を下回った。このうち、業務用向けについては2万703トン（同13.3%減）と9カ月連続で下回った。

一方、乳製品向けは28万7251トン（同0.2%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万4319トン（同3.7%減）と4カ月連続で下回った一方で、チーズ向けは3万5522

トン（同1.1%増）と6カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは、15万4957トン（同0.9%増）となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

### 全国の2月の牛乳生産量、前年同月を7カ月連続で下回る

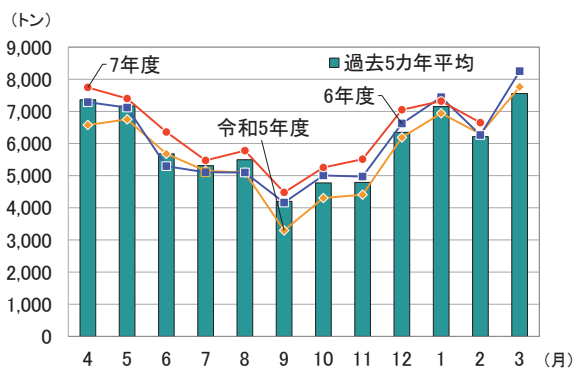
2月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、23万58キロリットル（前年同月比3.0%減）と7カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳も前年割れが継続しており、1万4219キロリットル（同8.9%減）となった。また、加工乳についても、1万1352キロリットル（同3.2%減）と7カ月連続で前年同月を下回った。

はっ酵乳は、8万1525キロリットル（同0.0%減）と前年同月並みとなった。

### 2月末のバター在庫量、前年同月比26.2%増

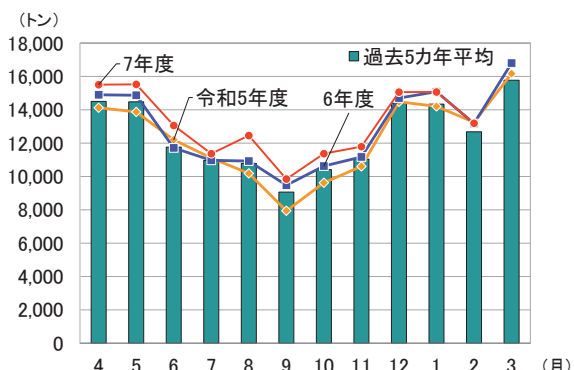
2月のバターの生産量は、6649トン（前年同月比6.2%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った（図2）。一方、出回り量は6752トン（同2.6%減）と2カ月ぶりに下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、18カ月連続で前年同月を上回り、2月末は3万2677トン（同26.2%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移



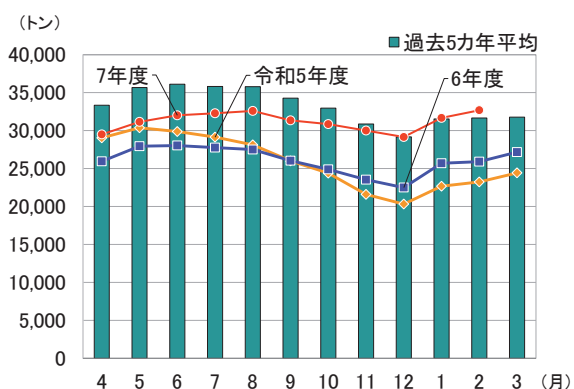
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



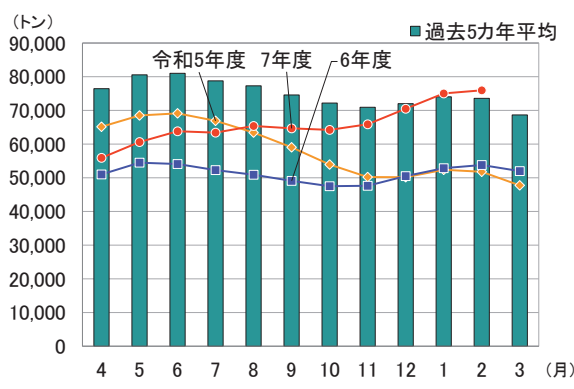
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

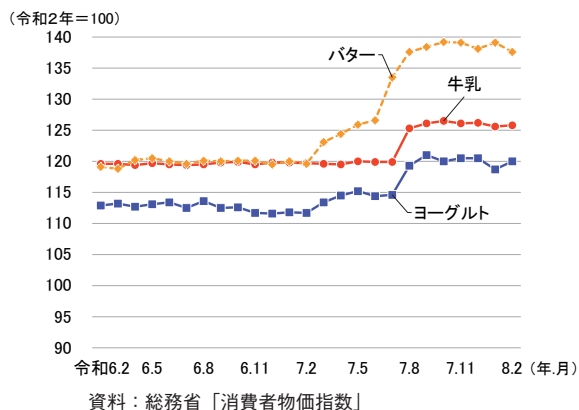
## 2月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比41.2%増

2月の脱脂粉乳の生産量は、1万3192トン（前年同月比0.1%増）と前年同月並みながら、2カ月ぶりに前年同月を上回った（図4）。また、出回り量は1万2271トン（同0.2%増）とこれも前年同月並みながら、13カ月ぶりに上回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、7万5961トン（同41.2%増）と15カ月連続で前年同月を上回った（図5）。

## 2月のバターの消費者物価指数、前年同月比15.1%上昇

総務省が令和8年3月24日に発表した2月の消費者物価指数（令和2年＝100）によると、牛乳は125.8（前年同月比5.1%上昇）と前年同月をやや上回った。ヨーグルトは120.0（同7.4%上昇）とかなりの程度上回り、バターは137.6（同15.1%上昇）とかなり大きく上回った。それぞれ、令和7年3月の生産コスト上昇による製品価格の改定、6月の加工用向け乳価の引き上げ、8月の飲用向けおよびはっ酵乳向け乳価の引き上げに伴う製品価格改定以降、高水準で推移していることがうかがえる（図6）。

図6 消費者物価指数の推移



(酪農乳業部)

## 鶏卵

### 8年3月の鶏卵卸売価格、前年同月比1.2%安

#### 卸売価格

令和8年3月の鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）は、1キログラム当たり323円（前年同月差4円安、前年同月比1.2%安）と、前年同月の同価格をわずかに下回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同325円から19日には同320円に下落し、月末まで同額で推移した結果、月間の下落幅は同5円となった。なお、過去5カ年の3月

の平均卸売価格は259円であり、それと比較すると、24.7%高と大幅に上回る結果となった。

供給面については、一時的に減少していた生産量は徐々に回復し、生産は安定した。需要面については、外食筋において、大手ファストフードチェーンによるプロモーションが開始され、引き合いが強まった。

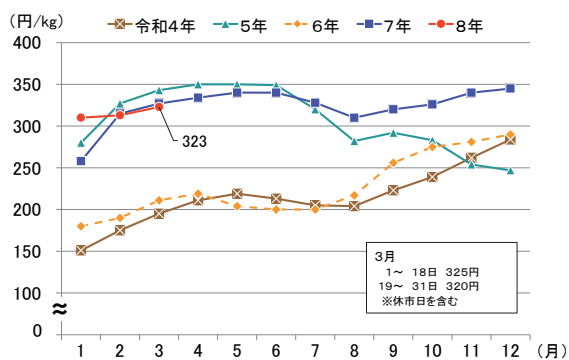
#### 家計消費量

2月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）<sup>(注)</sup>は、860グラム（前年同月比0.1%減）と前年同月並みとなった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の2月の平均消費量との比較では、2.6%減とわずかに下回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

図 鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」  
注：消費税を含まない。

(畜産振興部)

# 令和7年(1~12月)の食肉の家計消費動向

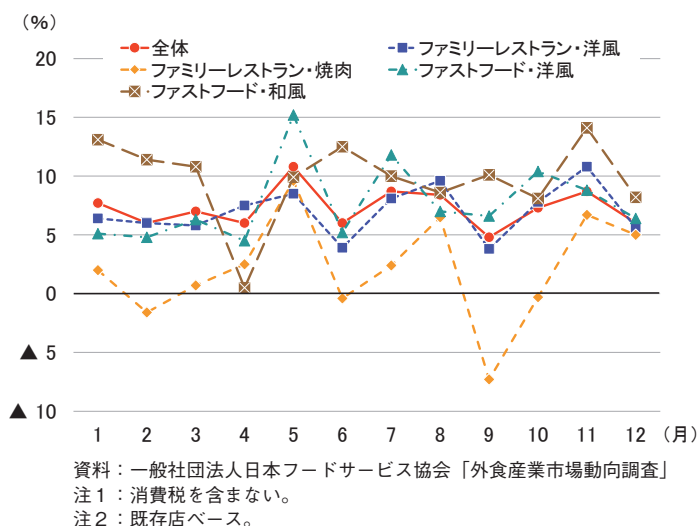
## 節約志向が継続する中、価格改定などの影響により外食の売上高は上昇

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査(令和7年(2025年))年間結果報告」によると、令和7年の業界全体の売上高は、物価高による消費者の節約志向が強まる中、原材料費の高騰などに起因した価格改定による客単価の上昇、大阪・

関西万博の開催による関西圏の需要の押し上げ、過去最高となった訪日外客数などがプラス要因となり、全店ベースで前年比7.3%増となった。

業態別に見ると、「ファストフード」(前年比7.5%増)、「ファミリーレストラン」(同7.2%増)など、すべての業態で前年を上回った(図1)。

図1 令和7年における外食産業の業態別売上高の推移(前年同月比)

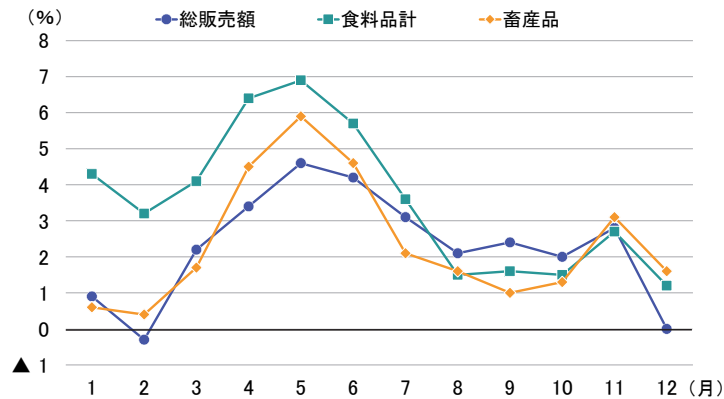


日本チェーンストア協会の「チェーンストア販売統計」によると、7年の総販売額は12兆8675億円(前年比2.2%増)となった。

カテゴリー別に見ると、「食料品」(同3.5%増)、その内数である「畜産品」(同2.4%増)、「住関連品」(同0.4%増)はいずれ

も前年を上回った一方、「衣料品」(同1.8%減)は前年を下回った。「食料品」は、期間を通して節約志向から買上点数の減少傾向が続いたが、店頭価格の上昇や米などの農産品の相場高により売上高は伸びた(図2)。

図2 令和7年におけるチェーンストアの部門別売上高の推移（前年同月比）



資料：日本チェーンストア協会「チェーンストア販売統計」  
注：店舗調整後。

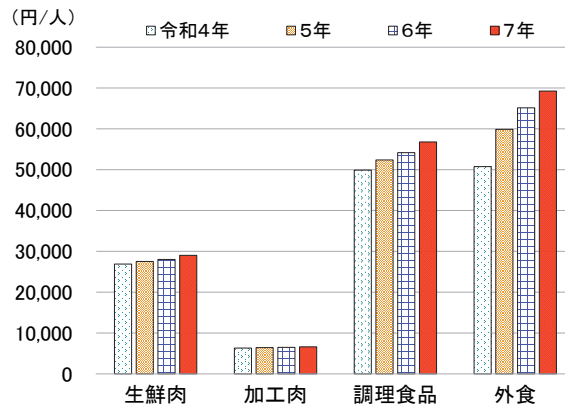
### 食肉の購入数量、豚肉と鶏肉が前年を上回る

総務省の「家計調査」によると、令和7年の家計消費（全国1人当たり）<sup>(注)</sup>は、購入金額では「生鮮肉」が2万9012円（前年比

3.6%増）、「加工肉」が6613円（同2.0%増）、「調理食品」が5万6782円（同4.8%増）、「外食」が6万9254円（同6.3%増）と、いずれも前年を上回った（図3）。

（注）1世帯当たりの数値を当該年の世帯人数で除して算出。

図3 品目別の家計消費（購入金額）の推移



資料：総務省「家計調査」

注1：1世帯当たりの数値を当該年の世帯人数で除して算出。

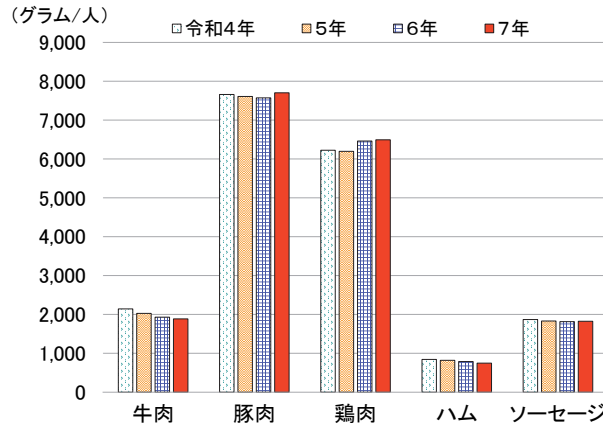
注2：消費税を含む。

注3：贈答用など自家消費以外のものを含む。

7年の食肉の購入数量を畜種ごとに見ると、「牛肉」は1885グラム（同2.3%減）と前年を下回った一方、「豚肉」は7703グラム（同1.7%増）、「鶏肉」は6492グラム（同0.5%増）といずれも前年を上回った（図4）。

食肉加工品は、「ハム」が747グラム（同5.2%減）と前年を下回った一方、「ソーセージ」は1824グラム（同0.5%増）と前年を上回った。

図4 食肉の種類別の家計消費（購入数量）の推移



資料：総務省「家計調査」  
 注1：1世帯当たりの数値を当該年の世帯人数で除して算出。  
 注2：贈答用など自家消費以外のものを含む。

### 牛肉：豚肉、鶏肉への需要シフトが継続し、購入金額、購入数量ともに減少

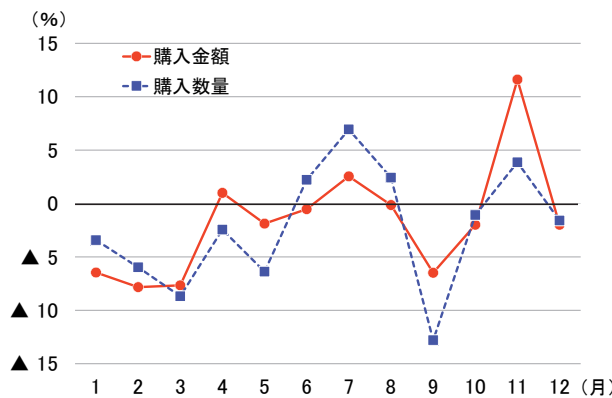
牛肉の消費構成は、家計消費が減少する一方、外食・中食への仕向け量が拡大する傾向にあり、近年は、外食・中食が全体の消費量の約6割、家計消費が約3割、加工仕向けが約1割で推移している。

牛肉の令和7年の家計消費(全国1人当たり)を見ると、購入金額は4月、7月、11月を除き前年を下回り、購入数量も年の半分以上で

前年を下回った(図5)。前年と比較すると、通年では購入金額、購入数量ともに減少した。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会の「スーパーマーケット白書(2026年版)」(以下「スーパー白書」という)によると、4月は週末の焼肉需要やハレの日需要、7月から9月はバーベキュー需要により、一部店舗で販売が好調で、また、牛肉価格の高止まり傾向が続く中、10月、11月は国産牛肉の販売にやや回復傾向が見られたものの、年間を通じて、牛肉から豚肉、鶏肉へ需要がシフトする傾向が継続した。

図5 令和7年における牛肉の家計消費の推移(全国1人当たり、前年同月比)



資料：総務省「家計調査」  
 注1：購入数量および購入金額は1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。  
 注2：消費税を含む。  
 注3：贈答用など自家消費以外のものも含む。

## 豚肉：牛肉からの需要シフトや輸入品が好調で、購入金額、購入数量ともに増加

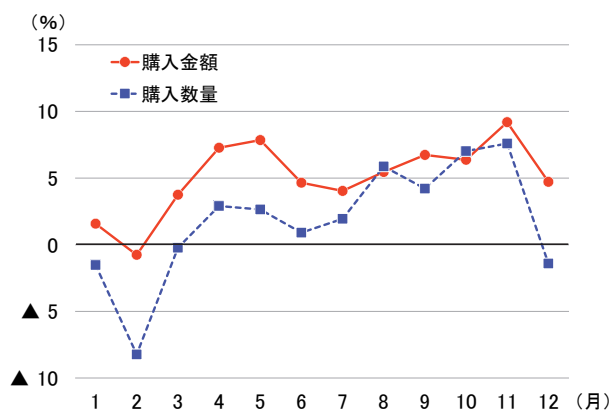
近年の豚肉の消費構成は、最大の仕向け先である家計消費が全体の消費量の約6割、加工仕向けおよび外食・中食が約4割で推移している。

豚肉の令和7年の家計消費（全国1人当たり）を見ると、購入金額は、2月を除き前年

を上回り、購入数量も年の半分以上で前年を上回った（図6）。前年と比較すると、通年では購入金額、購入数量ともに増加した。

スーパー白書によると、牛肉から需要がシフトする流れが継続する中、国産豚肉の価格高騰により、比較的安価な輸入豚肉が好調に推移した。年の終盤には国産豚の相場が落ち着き、スライスや切り落としなどの販売が伸びた。

図6 令和7年における豚肉の家計消費の推移（全国1人当たり、前年同月比）



資料：総務省「家計調査」

注1：購入数量および購入金額は1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

注2：消費税を含む。

注3：贈答用など自家消費以外のものも含む。

## 鶏肉：価格高騰も、牛肉からの需要シフトが継続し、購入金額、購入数量ともに増加

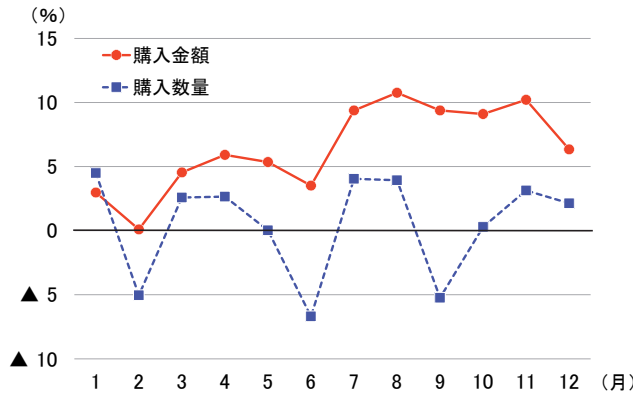
近年の鶏肉の消費構成は、最大の仕向け先である外食・中食が全体の消費量の約5割、家計消費が約5割、加工仕向けが1割未満で推移している。

鶏肉の令和7年の家計消費（全国1人当たり）を見ると、購入金額はすべての月で前年

を上回り、購入数量は年の半分以上で前年を上回った（図7）。前年と比較すると、通年では購入金額、購入数量ともに増加した。

スーパー白書によると、国内や主要輸入先のブラジルにおける高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生の影響により価格が高騰し、数量が伸び悩んだ店舗も見られたものの、年間を通じて、牛肉から需要がシフトする傾向が継続した。

図7 令和7年における鶏肉の家計消費の推移（全国1人当たり、前年同月比）



資料：総務省「家計調査」  
 注1：購入数量および購入金額は1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。  
 注2：消費税を含む。  
 注3：贈答用など自家消費以外のものも含む。

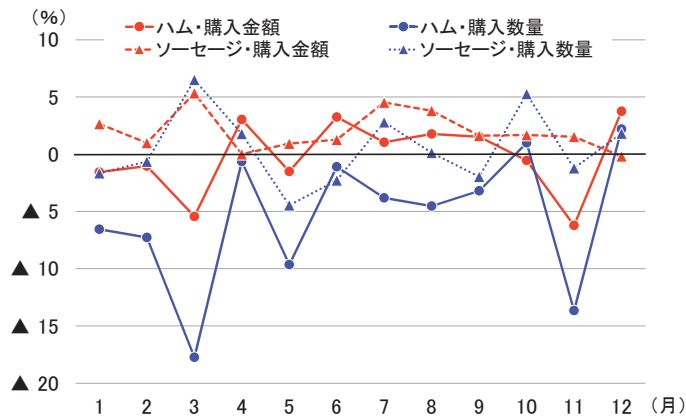
### ハム・ソーセージ：購入金額は増加、購入数量は減少

ハムおよびソーセージの令和7年の家計消費（全国1人当たり）を見ると、ハムは、購入金額は年の半分で前年を上回った一方、購入数量は10月と12月を除き前年を下回った。

ソーセージは、購入金額は4月と12月を除き前年を上回った一方、購入数量は年の半分で前年を下回った（図8）。

スーパー白書によると、ハムなどの加工肉は、一時回復傾向が見られたものの、年間を通じて、動きが鈍かった。

図8 令和7年におけるハムおよびソーセージの家計消費の推移（全国1人当たり、前年同月比）



資料：総務省「家計調査」  
 注1：購入数量および購入金額は1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。  
 注2：消費税を含む。  
 注3：贈答用など自家消費以外のものも含む。

(畜産振興部)